

豐十月 發行金銀

五兩	九十九元
壹兩	九十九元
五錢	四十九元
二錢	二十四元
一錢	十二元
半錢	六元
一分	三元
五分	一元五角
二分	七角五分
一分	三角七分五厘

以上各款均係新造，品質純正，歡迎各界垂青。

朝鮮日報社長は修亮君足下、足下がまたの名を義養公といふ。何ヶ夫れ爾く其名の多きや、而して明治癸卯六年著述の『韓海通流指針』なるもの、墨譜會より出版されたるに、是下から我國讀者と興へたる功績あり、汝すべし我母國に教へたる指針長きに其師たらんとす。牧井眞の序文に就近邦人之往滬干海外者漸衆矣、還之及北米諸洲南洋、近之到臺灣轉海面韓海爲最衆

と云ひ、保寧山人は

として決斷雖もとなしか、優柔不斷の路は決して足下をして當らしむべき言にあらずとも難し、創業經營の苦心は、或は之をして

今朝鮮日報紙上精勵を盡つて加はり、活潑の氣節に滿ちて、溢るる所光彩殆んど陸離、新之を以て開地を放つたものあり、く足下經濟方面の材料に汲々たりと知らずや、裏面社に在せる斯道熱練の人あらずや、熱誠の氣を勵し、事業の進行に幾分は豫打てば可也、進へば是なり矣、社界は足下が熱誠の氣を勵し、事業の進行に幾分は

當時邦人の往來韓海者不下五千艘
名曰韓海通漁指針、其用意之熟到周密、
不啻使人知海理與魚族之所避、而逐利無
似、大則統明通漁法約之所由來、細則受
檢授票之提撕
と稱し、成田定は
半島の沿海は總て我が獨占の好漁場たら
んとするの勢あり、此時に際し此好著を
見る。

と云へり、要するに足下が怒濤と戰ひ風伯
と争ひ、一葉の扁舟に釣を垂れて海の淺深
を試み、潮流の干満を意と替め、多手の片足
を以て、

與へんとせり、奮へば可也、進めば足れり
矣、生きたる韓國の羅針盤、活動せる八道
の手引草、那邊に向つて果して矢を放たんと
する、母國の人も釜山の我を齊しく翅翹
して俟てる所以のもの、他にあらすして棲
に存する也、旣を勉めよや、妄言多弊。

釜山領事館の調査(概)

釜山、蔚山、人口、地積

釜山、蔚山、人口、地積

鏡に此大著述を作せるが爲なり、大率約五百頁、荷も漁養者ならんもの、一讀せざるべからざる良書也、憶ふは足下黒龍會員となりて、往年良平・田子と共に撈へて釜山に來り、後其黨亂したる財政を兩手に提し、良平子の姑勞を下げず能く其身振りを續ひ又之に關係厚き足下が名を著さざらんや、夫の快刀亂麻を斷つと云ふ處はざるも、確かに著理の妙腕を有するや、一好例を示せり、海既に盡くせり、宜しく陸に遊ぶべしとする

行はれ現今於ては廣州、梧州、貴陽、金
海、寧波、青松、吳江、甯州、河東、
東、密陽、大嶺、巨濟、車梁、河東、
同、咸陽、草溪、永川、榮川、梁山、金山、
興安、慶基、漆谷、陝川、柳道、固城、寧海、
義安、豐基、義城、成德、固城、開寧、
宮清河、溟源、興安、咸安、玄風、
海、三崙、河洞、妙寺、產院、鎮海、延日、
禮古、山、丹芳、妙寺、新寧、延日、
山、泗川、熊川、英陽、義興、比安、神
安、長豊、昌寧、機張、慈仁の各節なり
と謂へば自然統計上の等数の地位には變更
を免れず又統計上の事柄は凡不備不足
の國體には良しとし難し前項掲記あると
との變異正論を保し置

今、飄然、銃を荷ふて韓山の郊原に入る。深險峻嶒、地形として之を窮めざるはなく、風俗として之を知らざるはなし、況んや人情に於て之や、況んや産物に於て之や、生きたる韓國の雞針盤たり、活動せる八道に手引草たり、宜なるかな、日報紙上、趣味

本道に最も關聯深き洛東江の流域に就ち、更に其群衆を記さんと爲る。其源を、白山の寛大、白山の南より發し岩窟を透過して流け、又右面嶺嶺山、嶺南の諸水集りて其幹流となし、長流嶺の如く南流して鴨安に至りて寬江として西安東府を穿ち、南嶺山、咸昌の界に至りて洛東江と稱す。嶺南、南嶺山、仁同の諸邑を経て大邱、星の間の横嶺

一地勢、府縣、人口、地積

[illegible]

本道に最も關聯深き洛東江の流域に就くて
 更に其詳細を記さず洛東江は其源を以もつ
 白山の東大白山の南より發し岩嶺を透過
 して流け又右南嶺嶺頭山嶺等の諸水集あり
 て其流を下り長流帶の如く南流して海
 國の界に至り宛折して西安東府を東南
 咸昌に至り流れて洛東江と稱す嶺南
 仁同の諸邑を経て大政ていせい星の間に横斷

韓國の氣候を概言すれば多期間に極め
 寒く夏則ち又極めて熱なり尤も潮汐の
 向く其地形に依りて一熟ならずと雖も
 館營驛區域内たは慶尙南北道並忠清道
 一部は異なり一定の溫度を保持し各地格
 甚しき差なく極寒地帯は毎年陰曆十
 十二の兩月にて、極寒は陰曆六七の兩

日韓幣制の共通

果、光武五年の貨幣條例に應ず六月一日
 貨幣條例を施行するにあつたは、貨幣の
 なるが、貨幣條例は殆んど其貨幣の如
 にして異なるものは、唯、名額のみ即ち該
 條例に依れば、金貨は幣制金貨十、二分の價格と
 銅貨は幣制金貨十、二分の價格と
 單位と定め之を金貨と稱し五十錢を半兩、百
 錢を一兩と稱す、貨幣の種類は金貨、銅貨、銀
 貨、鐵貨の四種なり、

第一項 俸給 四萬三千六十二元
 第二項 雜費 二萬八千六百十二元
 第三項 議會修繕費 六千九百
 第四項 外遊及小包物贈品費 八千五百
 第五項 郵票印刷費 五千元
 第六項 船給及雜費 七萬七千五百元
 第七項 雜給及雜費 七萬七千五百元

十圓、五圓、銀貨幣半圓(五十錢)二十錢、十錢、銅貨幣五錢、赤銅貨幣一錢等にして其品類は多量に發行され、且日本は我金銀貨幣と同一(即ち我國は彼の國なり)なれば今回の幣制改革の結果、日本は金貨貨幣を幣制改革は故障なく韓國に通用すると見做さるべし、韓國の其共通此の改革と共に發行されるべし等也。

參與官の設置 日本政府は韓國政府に所屬に雇附せらるる顧問の外に參與官の名義を許す韓國官吏と同じ之事實上行政官と稱する者たる官吏を持置することとなり

第八項 入道學校費 三百元
第九項 外遊學校費 三百元
第十項 臨時郵遞經費 七萬八千二百四十四元
第三項 電報事務費 十四萬六千八百六十六元
第一項 俸給 一十六萬六千六百元
第二項 通費 一萬八千一百十元
第四項 應合條理費 二千二百五十元
第五項 燃料購買費 三千元(紙貨)
第六項 電料購買費 二千元
第七項 電料搬送及雜費排置費 一萬
第八項 旅費 一千三百元
第九項 電報學校費 二百四十元

前原文學博士の如きも参興官として行政の
官制に當るものとせられ其應酬契約條件は左
の如し

一學制に關する事項は参興官に諮詢する事
一學制に關する會議には必ず参興官の列
席を要する事

一教育に關する獎勵を命ずる場合には日
本代表者の同意を経て發任し得る事

一修給は月賃金三百圓、旅料毎月金三十
圓、歸國旅費二百圓とし公務の爲内地を
旅行する場合は一圓とし入國を

第十項 學徒留學費 二千三百二十元
第十項 學船事業費 一万四千七百六十元
第四項 總費 三千十五元
第二項 雜給及雜費 一万九百六十二元
第三項 旅費 七百八十三元
經費支出總計 四万一千三百三十三元
合計 四十七万二千五百四十元
歲出經常費總計

一千四百二十四萬七千六百二十四元
歲出臨時部

官内府所管
第一款 重連費 二十萬元

漢城政海の變動 信すべし 韓人側

の說に據れば日韓要路に在る老朽大官は概して引退せしむべきものと主張し、近々少壯者進新に出ても、新内閣を組織する場合には日本代表者の同意を要する事

第二款 新築費 一萬元
第二項 開港場警務署新築費 一萬元
合計 三十二萬元

第一欸 官制改正所 三千三百元
第一項 俸給 一千五百六十元

甲、撰院所管

第一項	俸給	四萬三千元
第二項	廳費	二萬八百六十二元
第三項	總舍修理費	六千九百
第四項	外通及小物件備品費	八千五百
第五項	郵票印刷費	五千元
第六項	雜給及雜費	七萬七千五百元
第七項	雜費	七千元

第八項	外遊學校費	三百元
第十項	臨時郵遞經費	七萬八千二百四
第三款	電報事費	十四萬六千八百六十
第一項	俸給	四萬六千六十元
第二項	應稅	一萬八千一百十元
第三項	應合條理費	二千二百五十元
第四項	軍料購買費	三萬元（紙貨）
第五項	電報購買費	二萬元
第六項	電料搬運及雜費排置費	一萬
第七項	繙給及雜費	四萬六千五百八十
第八項	旅費	一千三百元
第九項	電報學校費	二百四十元

第十款 學徒留學費 一千三百二十元
第十款 管船事業費 二萬四千七百六十元
第四項 總費 三千十五元
第二項 薪給及雜費 一万九百六十二元
第三項 旅費 七百八十三元
紙貨支出差增 四万一百三十三元
合計四十七萬二千五百四十元
歲出經常費總計
一千四百二十四萬七千六百二十四元
歲出臨時部
宮內府所管
第一款 重進費 二十萬元

第一項 官制廳正所	三千三百元
第一項 俸給	一千五百六十元
第二項 薪俸	一萬元
第二項 開港場警務署新築費	一萬元
合計	二十二萬元

議政府所管

英國	シイナントナル	梅村 士	日本
----	---------	------	----

幽鑿城の探險 ついで
 應は城の彈藥庫であつた。意不^{イフ}不^フ石^シ殿^{テン}が
 空があつて其^{ソノ}隅^{カド}々^々に彈藥箱が散^チてあ
 る。其^{ソノ}内^{ウチ}の一^{ヒト}箱^{ハコ}は口を開けたまゝ、室^{ムロ}の真^マ中^{ナカ}
 へてある。其^{ソノ}口^{クチ}から彈藥が真^マ黒^{クロ}く床^{トコ}の上^{ウヘ}
 へ散^チてゐる。其^{ソノ}向^{ムカ}ひ^ヘ側^{ワタリ}には小^コさい木^キの
 のる而^{シテ}し^テは錠^{テイ}が下^シりてゐる。
 野^ノ「跡^{アト}の處^{トコロ}と余^{ボク}も變^カつた事^{コト}もないです
 のなれば」
 良田^{リョウデン}「變^カなん^ナか、何個^{ナンゴ}でもある」

良田「何處にです」
野田「良田は答へずして彈藥箱に描ざした。
野田「此庫を爆發させるですすか」
良田「其通り」
野田「さうしたら彈藥箱が皆破烈します
るのだ」
良田「それで以て糧食庫の戸の方を破
良田「それで以て糧食庫の戸の方を破
良田は天の室に走り戻つて蠟燭の遺灰

洋鐵の小箱を以て來たそれは、晴兵衛の
太鼓で四五筋の彈藥が積まるのを充
て、之に彈藥を切込んでゐる。世良田は
之の鐵を削り除けて中の糸文火を焼く
仕事の手早かつたのは、工兵の大体を
知るに足るのだと思つた。

議では無い、藥業の十幾箱も貯めて
の隣りで此危險な仕事をせうとする
から無論其間の隙の間から烟が
ものならば二人の黒煙の身体は城
高く敵艦を襲はれるのである。

翻譯小説
 英國 コーランドイル 作
 日本 梅村 豊 士 譯
 佛蘭西騎兵の花
 (花)

幽鬱城の探險 (ついで)

城の彈藥庫であつた。祿本が石壁にあつて、其隅々に彈藥箱が隠んである。其の一箱は口を開けた。室の真中にある其口から彈藥が真横に床の上へ落ちてゐる。其向ふ側には小さい木の箱が下りてゐる。而しては錠が下りてゐる。單の處に余り變つた事もないです。ければ」

「お變なんか。何個でもある」

何處にです」
 は谷へすして彈藥箱に指さした。
 此庫を爆發させるのですか
 「其通り」
 さうしたら彈藥箱が皆破烈します
 龍野の云ふ通りた、而し世良田の
 ははもつと精密であつた。
 出づるで、以て糧食庫の戸の方を破
 は元の室に走り戻つて蠟燭の遺

の小箱を以て來たそれは將兵の
で四五碗の彈藥が積まるの
彈藥を掬ひ込んでゐる。世良田は
を削り除けて中の糸心丈けを殘し
の手早かつたのは工兵の大体を發
るのだと二人は思つた。

は無い、彈藥の十幾箱も貯えても
 決して此危險な仕事をせうとするや
 ら無論其間の扉の隙間から煙が
 のならば二人の黒煙の身体は城の

ながら西へ下つてゆく。撫子、席のあつた處から、明い廊下で見ゆる、
 破れた襦袢が、く其刻を笑したのだ。
 其結果、は單に肩を破れただけ、で無く、意
 外の結果を來してゐる。
 其爲めに二人の牢獄を破壊した計りでなく、
 人番を殺し、わがのてであつた。
 入番は、あ出て出た。と光る人番を

手に持たぬ男、額に大傷を受けて打倒せらるゝ。さうして足と腰を焼かれてゐる巨大が床の上に狂ひ廻つてゐるのが見えたり、其起き上つたのを見ると雨足其中程から亡くなつて破れた帆の様になつてしまつてゐる、それと同時に世良田は人々叫ぶ聲を聞いたと思ふとも一匹の巨大が龍野の頭に噛み付いて機嫌よく押し付けてゐるのを見た。

龍野は左手を以て大を押し送りながら剣を抜いで二度も三度も其腹を刺し殺したが世

●印刷用各洋紙
●捲簾用口紙
●ライスペーパー

持別廣告

良田がビストロで我を打たなかつた
らば其の鐵の如き齒は決して龍野の咽喉か
ら放れなかつたのであらう。

右御小賣販賣
萩野商店
(電話三十番)

必要な各群の状況名所舊跡案内等を網羅し来る十五日出版致し同書は販賣部數は極めて多数に上るべく随つて廣告の効力も著しく候に付廣告掲載の希望に於て来る十日廣告料は前金を要し候
明治三十八年二月

-49-

時販賣廣告

て来る二日より紀元節まで向十日間全部を陸軍部は献金の目的を以て花て陸軍御買求被下度廣告候也と呈す

北濱登丁目四番地
村釜山支店

大坂尼崎漁船
釜山港琴平町
新辰金

仁川行
●第
水日
九陽
二月三日

瀛船釜山出帆
告廣

(電話貳拾九番)

入方田丸 陰、十二月廿七
 世昌行仁川膠洲灣行
 ダグマル 號陽 二月
 上海行仁川ニラメタン號ニ接續

元山行

瀛船釜山出帆

廣告

(電話貳百貳拾七番)

防長丸

仁川行
全二月五日

●●●
神蒼
代龍
丸丸丸
全全全

●大金丸 ●三平安丸 ●生有丸 ●丸丸丸
全全全
二月二日

同 荷客 扱店 三木回漕店 電話八三
海岸出張所

電話百七十二

堀商會 旗船釜山出帆廣告

下關大阪行

元山行 慶尚丸 泰盛号 木浦群山仁川行

寧靜丸 全 十二月廿七
荷客取扱所 四川回漕店
堀汽船代運店

定期連船
若津丸
二月二日
午後六時
上回櫃店方
中上回櫃店方
國
中商
荷客取扱店

● 馬山浦行
● 山陽丸
日曆三月三十一日

午後一時正港務物總切九時

手形 十六割九分

花漬壹丁目四番地
村釜山支店




仁川行
第
水日
九
陽 二月二日

大坂尼崎渡船
元板所
釜山港榮平町
新辰
電話貳拾九番

汽船釜山出帆廣告

元山行
 瀛船釜山出帆廣告
 世昌 行仁川 膠洲灣 行
 入方 陽 陰 十二月廿七
 ●ダグマル號 陽 二月
 上海行 仁川ニケマタン號ニ接續
 沖永田酒庄
 (電話貳百貳拾七番)

●	●	●	●	●
第二	神	蒼	防	第二
崇	代	龍	長	浦
敬	丸	丸	丸	門
丸	丸	丸	丸	丸
全	全	全	全	全
二月五日				二月二日




 二月一日
 平安丸 全
 大有丸 全
 金生丸 全
 荷客 拔店
 三木回漕店
 電話八三三
 海岸出張所

下關大阪行
● 商會 旗
● 泰盛號 全全 二月二日
● 慶尙丸 全全 二月二日
元山行
木浦群山仁川行
電話百七十一

轉靜丸 全 十二月廿七
 荷客取扱所
 處方請代運店
 大川運船株式會社
 大川運船株式會社
 釜山出帆廣告
 定期連若津丸 二月二日
 午後六時
 盛原唐津行九州鐵道二連結一
 中上回欄店方
 荷客取扱店
 中商

馬山浦行
山陽丸
日曜二月三日
午後二時開港荷物締切九時
八頭司運送部

馬山浦行
山陽丸
午後二時開港荷物締切九時
八頭司運送部

吉崎善三